

きずな

学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を備え、
力強く生き抜く生徒の育成」

子どもたちの声を地域全体に

私が今の住居をかまえたのは、子どもが4歳の時でした。引っ越しを終え、ご近所にあいさつに行くと、『子どもの声が向こうの路地から聞こえてきて、嬉しく感じていたところ。』と話してくださいました。その子どもも既に成人しました。最近お隣の子どもたちが、我が家の前で元気に遊んでいる姿を見ると、その時の言葉の意味がよく分かります。

都城市では、『地域と学校の協働』を推進しています。地域の子どもたちが健やかに育つために、学校を地域に支援していただく。その一方で、学校は地域のために出来ることを考え、実践していく。そして良い学校・元気な地域を作っていく。それが『地域と学校の協働』だと考えます。

私たち学校に出来るのは、まず、子どもたちの元気な声を地域に響かせるこ



とです。子どもたちの声が、地域に響くことが、地域の元気の源になると考えています。

今年はコロナウイルス感染対策のため、SF（スポーツフェスタ）もCF（カルチャーフェスタ）も地域の皆さまにご案内することが出来ませんでした。「せめて…」との思いからSFの動画をHPで公開し、CFは生中継を行おうと考えています。

行事に取り組む子どもたちの、元気な姿を

見ていただくことが、子どもたちの地域への貢献になるものと思っています。これからもいろいろな機会、地域に元気をお送りする活動を、学校から行いたいと思います。

一番身近な和の文化 ～お箸の作法～

お箸の文化というのは、日本に伝わるとても誇れる文化だと思います。

お箸を使う上で、してはいけない作法がいくつもあります。例えば、手では届かない距離にあるものをお箸で引き寄せる「寄せ箸」があります。なぜこれがいけないかというと、「うっかりこぼしてしまったりすると周りの方に迷惑をかけてしまう。」「いのちである食べ物を大切にしていない行為である。」からだそうです。他には「さし箸」があります。これには二通りあって、「箸の先で人を指す、指し箸」「お箸で食べ物を刺す、刺し箸」です。前者は「箸のとがった先を向けられると相手が怖いから」、後者は「いのちである食べ物に対して刺す行為は失礼だから」だそうです。



一つ一つの作法に、「周りの人に対する思いやり」「食べ物を大切に思う気持ち」が込められているのですね。こうした一つ一つの作法に込められた日本人の思いを私たちも理解し、引き継いでいきたいですね。

今度こそは・・・

10月16日のカルチャーフェスタ、左にも書いたように、生配信を行います。本校HPより、ぜひご覧ください。

